

ふじのくに芸術祭2015美術部門書展がクリエート浜松で開催されました。

「ふじのくに芸術祭」は、広く県民に芸術作品の発表や鑑賞をする機会を提供し、県民が自ら行う文化活動を支え、静岡県の文化の向上発展を図ることを目的として開催しています。美術部門の先陣をきって書展が9月26日(土)～10月4日(日)までクリエート浜松にて開催されました。

応募総数は672点、うち入賞者26点、入選数374点 総数401点(招待作品1点を含む)が一堂に展示されました。

また、9月27日(日)同会場にて書道ワークショップ:「好きな文字を書いて 名前を彫ろう」が開催され25名の小、中、高校生が参加しました。参加者全員が思い思いの好きな字を半紙に書き、印を彫って作品を仕上げました。字の指導は田代香桃先生、印の指導は師岡素山先生が行いました。



審査員の講評は以下の通りです。

審査総評

本年55回の節目を迎えられた静岡県芸術祭美術部門書道展の審査を、漢字部門を木本南邨、かな部門を森貴三子の両先生とともに担当させていただきました。三者とも本展での外部審査員は初めてのことで、やや緊張しながら審査に当たらせていただきました。672点の出品作品のうち、約半数をしめる漢字作品を木本先生、かな部門は森先生、篆刻、近代詩文書、大字書、前衛書を辻元が分担して入落の選別、入賞候補選出を行いました。かなりハイレベルの作が揃っており、入落の段階でも大変苦勞しました。展示数の関係から60%しか入選させられず、40%の方を選外とする厳しさは応募された方々に申し訳なく思いながら選別させていただきました。

入賞選考は三者合同で話し合いながら行いましたが、部門別のシェアも考慮に入れ決定させていただきました。本展のレベルの高さを証明する素晴らしい作品が選ばれたと思います。

今後益々の充実発展をお祈りしながら総評にかえさせていただきます。

(審査員代表 辻元 大雲)

作品評

●芸術祭賞 杜少陵詩(漢字) 鈴木 鳳苑(富士市)

金色の紙に、5行にわたり多字数でありながらスツキリと品格ある作品に仕上げられています。一点一画を的確に運筆し、破綻なく書き切っています。鍊度の高い作品であると審査員全員が評価して決定しました。(木本 南邨)

●静岡朝日テレビ賞 いさり火(かな) 西川 恵楓(掛川市)

筆先をきかせて、きりっとした緊張感の有る線質で書かれている。たんと書き進めていく中で、広い行狭い行の変化も有り、リズム感にあふれた格調の高い作品。何より古典の勉強をよくされていて、ねり上げられた作品です。(森 貴三子)

●奨励賞

漢字 高村 紫香(御殿場市)
岡村 玉鸞(浜松市西区)
青木 雪峰(静岡市葵区)
石橋 紅華(藤枝市)
石田 硯洞(焼津市)
かな 杉村 紅鈴(島田市)
近代詩文 鈴木 恵穂(浜松市東区)
前衛 山本 大寛(静岡市葵区)
少字数 櫻本 太志(田方郡函南町)
篆刻 望月 敬一(静岡市清水区)

●準奨励賞

漢字 矢野 青波(伊東市)
齋藤 翠雨(富士宮市)
進士 玄櫻(静岡市清水区)
大野 瑾華(富士市)
浦野 麗風(御前崎市)
杉山 美舟(焼津市)
田中 草遙(浜松市中区)
増田 蘭香(焼津市)
かな 後藤 幽智(静岡市葵区)
伏見 春溪(静岡市清水区)
小澤 芳翠(静岡市葵区)
少字数 鈴木 美恵子(静岡市葵区)
藍澤 優依(沼津市)
前衛 竹村 美園(藤枝市)

応募状況 応募総数 672 点 入賞者数 26 点 入選数 374 点 展示総数 401 点(招待作品 1 点を含む)
審査員 木本 南邨(書家) 森 貴三子(書家) 辻元 大雲(書家)